



2022 年度（令和 4 年度・第 8 期）

# 事業報告書

1. 2022 年度を振り返って
2. 2022 年度 事業報告書
  - ・ 全体概要および事業内容補足事項
  - ・ 運営に関する事項
3. 2022 年度 活動計算書
4. 2022 年度 貸借対照表
5. 2022 年度 財務諸表の注記
6. 2022 年度 財産目録

認定特定非営利活動法人ポケットサポート

# 1. 2022 年度を振り返って

2022 年度は、新型コロナウイルス(COVI-19)感染症の影響が少しずつ緩和され、以前の日常が戻ってくる実感を伴う 1 年になったと思います。ただ、病気を抱える子どもにとっての感染症のリスクは変わらず、病院内や療養中の自宅で過ごす子どもや家族からは不安の声が聞こえていました。小児科病棟へ赴いてのポケットサポートの活動や対面での支援が休止となって 3 年が経ったことで、今まで通りの活動では病気療養する子どもたちへリーチすることが難しい時期が続いています。このような状況下で、私たちは前年度の事業方針を「知ってもらう・つながる・広める」とし、ターゲットへ必要とする支援を届けるための施策について模索を続けた 1 年でもありました。

## Mission

(ポケットサポートが社会で果たすべき使命)

### ①環境をつくる

### ②生きる力を育む

### ③人や気持ちを繋ぐ

私たちが掲げる 2025 年ビジョンの 1 つ目のミッション「環境をつくる」では、オンラインでの支援により入院中から自宅療養中まで様々な子どもたちへ学習や交流を届けることができました。また、GIGA スクール構想の好影響によって、支援活動を行う小児科病棟へ入院している子どもが地元の学校の授業を受けられたという報告が医療者から聞こえてきました。年間で数例ではありますが、私たちが以前より取り組んできた遠隔授業のサポートが実を結んできたことを実感しています。環境が完全に整うまでにはまだ少し時間がかかりそうですが、この 1 年で進んだ一歩は大きな歩みになったと感じました。

そして今年度は初めて岡山県以外で深く関わった中学生が、無事高校へ進学を果たすことができました。

#### ■本人からのメッセージ

「ここまでこれたのは、ポケットサポートの皆さんが支えてくれたからです。本当にポケットサポートの皆様に出会えたことは、私の心の中で大きかったです。いよいよ高校生となります。新しい環境で仲間達と切磋琢磨していくのですが、勉強についていけるか、不安と楽しさ、半分ずつですが、高校生活を頑張っていきたいと思います。また、これからもポケットサポートの方達やその仲間と繋がっていききたいので、今後ともよろしく願いいたします。」

相談が始まった当初は、闘病しながらの学校生活や受験に周囲からの理解が得られずとても辛い思いをしていた様子が伺えました。特にコロナ禍の入院生活では同じような病気と向き合う生活をしている同世代と出会えなかったと話してくれました。ポケットサポートの活動に参加し、同じ病気療養中の人たちとの出会いを通じて、少しずつ前向きになっていく姿が見えてきました。

受験終了後に話をした時、「高校では中学の時にできなかった色々な事にチャレンジしたい。」と力強く語ってくれた姿にスタッフ一同、安心することができました。今後も、ひとり一人の子どもたちや家族と長く成長を見守りながら、支援が必要な時には寄り添うことができる存在として、私たちの役割を果たしていきたいと思っています。



2 つ目のミッション「生きる力を育む」では、「ポケサポ相談ダイヤル」へ寄せられる、お電話やメールに対応していきました。病気があってもなくても、誰しもが自らの困難やネガティブな経験を抱えている事と思います。そんな時、誰かが共感してくれて、信頼できる関係性の中で、その話を真剣に且つ丁寧に聞いてくれたとしたら、救われる感覚になるのではないのでしょうか。

病気を抱える子どもたちは、その入院中や治療中の苦労が周囲の目に触れることがなく、大変さを自分の中で消化しながら過ごすことがあります。ポケサポデーで実施した「自分の病気について話そう」の企画では、中高生～20代を対象に、「ナースコールを気軽に押せる派と、押せない派がいる」「採血のときに何回刺されたかでマウントを取り合う」など、普段の学校生活では話すことができない「病気経験者あるある」で盛り上がりました。そして、この時、初めて交流に参加した中学生がいました。Zoom のカメラもマイクも OFF にして、いわゆるラジオ状態での参加でした。



しかし、回を重ねていく毎にマイクが ON になり、話に参加できるようになり、最後のクリスマス会ではカメラも ON にして顔を出してみんなと笑い合える姿を見せてくれました。この「病気経験者あるある」の話は、「自分ひとりがそうじゃないんだ」「この苦労も笑に変えて気軽に話ができるんだ」とネガティブな経験をポジティブに変える作用がある。この子の生きる力が育まれていく時間に立ち会うことができました。



3 つ目のミッション「人や気持ちをつなぐ」では、ひとつの形となる成果として、今まで様々な機関と多職種連携してきた事例をまとめた冊子を制作、県内の全ての学校関係はもとより全国の小児慢性疾患関係機関や、小児がん拠点病院等に配布することができました。病気療養児支援で問い合わせがある相談内容は、1つの専門機関や学校だけでは解決が困難な内容がほとんどです。「好事例」は関わる人たちの頑張りによって上手くいっているため埋もれてしまって、相談に至ることがないからです。私たちが関わってきた「好事例」とその周囲の人たちの「協働」が形になり、未来に希望が持てる事例を5つ選び、掲載した実践事例集を完成させることができました。



▲電子 BOOK として無料公開

<https://www.pokesapo.site/work/2282/>

さらに、その基礎となる多職種連携のサポートチーム作り事業も行いました。ポケットサポートが現在まで協働してきた教育委員会や保健所、支援学校の病弱部の担当者との定例会を開催しました。意見交換や事例共有をすることで、入院中や復学段階の子どもの状況に適したサポート体制整備のスタートが切れました。この年度だけで終わることなく、チームとして継続した取り組みにしていきたいと思えます。多職種連携ネットワークで、県内の支援学校病弱部との連携により、教職員の先生方への研修や、病弱部の生徒さんたちへの自立支援の講演も開始できました。



その他、WEBアウトリーチ事業では Google 検索キーワードの連動型広告からポケットサポートの相談窓口へ繋がるようなアウトリーチの試み、YouTube の動画広告によるアウトリーチなど、「知ってもらう・つながる・広める」ためのチャレンジを成果として残すことができました。次年度はさらにこの取り組みを充実させ、病気療養中の子どもとその家族に出会えるきっかけを広げていきたいと考えています。



2022 年度は数字としての支援の成果が見えづらい 1 年だったかもしれませんが。しかしコロナ禍以前から感染症対策に取り組んできた団体として、子どもたちが学び、安心して交流ができる場を積極的に作ることができました。加えて、私たちの事業を支えてくれる支援者・活動の理解者の人たちとの連携・協働を通じて、ポケットサポートが愛されている団体だと実感する瞬間もたくさんありました。定量的なものだけにとらわれず、病気療養児支援の NPO 法人として、定性的な成果を求めて丁寧に日々の活動を実施できたことを関わってくださる全ての方々に感謝致します。

代表理事 三好 祐也

## 2. 2022年度（令和4年度・第8期）事業報告

### (1) 病弱児の身体的精神的状態に合わせた学習復学支援事業

事業名	事業内容	区分	支出	受益対象・人数
		開催日時・場所		従事者数
個別学習支援 双方向WEB学習支援	自宅療養中や復学初期の子どもに対してのICT機器を活用した学習サポート	自主	571,146	小中高校生 のべ約30名
		随時・オンライン等		5名
ボランティア育成	学習支援及び相互交流支援を行う人材育成、オンライン支援に必要なPC等の環境整備	助成	244,777	大学生 のべ約100名
		随時・オンライン等		5名
多職種連携チームづくり 事業	県内の院内学級担任、医師や看護師等が集って情報共有、2月にフォーラム開催 (田辺三菱製薬手のひらパートナー助成)	助成	994,449	関係専門職 のべ約300名
		定例会3回・2月開催		5名
当事者へのWEB アウトリーチ事業	検索連動型広告を活用したアウトリーチにより資料配布や個別支援に繋げる (タケダ・ウェルビーイング・プログラム助成)	助成	744,849	中高生・教職員 のべ約100名
		随時・オンライン等		5名
		小計	2,555,221	

### (2) 病弱児同士の交流や集団での学習活動の支援事業

事業名	事業内容	区分	支出	受益対象・人数
		開催日時・場所		従事者数
ポケットスペース運営	利用者の環境に応じた相互交流、ピアサポート相談、学習支援を実施	受託	2,588,537	小児慢性特定 疾病児童等 のべ約40名
		毎週2回・オンライン		延べ260名
体験交流イベント	季節に応じた交流イベントのオンライン開催	自主	809,207	小中高校・若者 のべ約60名
		年間5回・オンライン		10名
きょうだい・家族ケア	クリスマスプレゼント送付、きょうだいへ知育玩具等のおすそ分けなどを実施 企業からの現物寄付は支援学校等にも配布	自主	287,511	当事者家族等 のべ約80名
		随時・郵送等		5名
		小計	3,685,255	

(3) 病弱児への支援に関する啓発活動および拡充事業

事業名	事業内容	区分	支出	受益対象・人数
		開催日時・場所		従事者数
講師派遣事業	大学等に講師を派遣して病弱児支援について 広報、周知活動	謝金	529,594	講演等参加者 約 700 名
		随時・オンライン等		3 名
地域多職種連携 拡充・研修事業	病弱児教育や療養環境について講演会開催、 多職種からの個別相談事例 DB 化 (橋本財団ソーシャルワーク支援助成)	助成	1,551,790	全国の関係者 約 340 名
		随時・8 月講演会開催		5 名
個別支援事例を 伝え広める事業	支援事例集の制作や事例解説動画を 活用した幅広い関係者への啓発活動 (ベネッセこども基金助成)	助成	1,008,153	当事者家族等 約 100 名
		随時・事例集配布		5 名
SDGs 連携事業	地球温暖化解決と病弱児支援を ハチドリ電力と啓発するイベント開催 (MDRT Foundation-Japan 助成)	助成	226,302	教育等関係者 約 30 名
		5 月オンライン開催		5 名
		小計	3,315,839	

事業費計：9,556,315 円

## 個別学習支援、双方向WEB学習支援



▲支援拠点での個別学習支援風景



▲双方向WEB学習支援用ICT機器

- ・訪問や対面での学習支援は実施せず、自宅療養中や入院中の子どもへ、療養中の学習空白を補うための支援や、長期入院のために分からない宿題の補助等を行った。
- ・各地域の保健所や県教育委員会、医療機関のスタッフからの紹介、ポケサポ相談ダイヤルに岡山県外からの問い合わせもあり、各方面からの依頼に対応した。
- ・相談から子どもへの関係性づくりを通して支援がスムーズに行える環境づくりを行い、大学生パートナーを中心とした学習支援が実施できた。

## ボランティア育成(新規ボランティア研修、フォローアップ研修)

### ■新規ボランティア説明会および初回研修

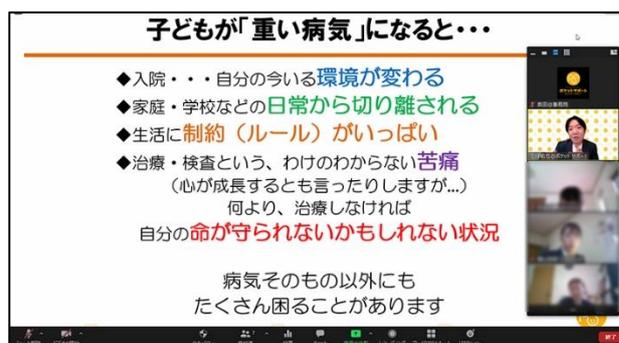
開催日：2022年7月2日

- ・岡山県内の大学窓口、団体ホームページよりボランティアを募集した。
- ・説明会及び初回研修を受講後に活動開始
- ・年間で9名の新規ボランティア登録者  
(参加15名中)

### ■フォローアップ研修

- ・交流支援実施後に、毎回振り返り会を実施。3～4か月に1回のペースで各個人へのフィードバックもあわせて行った。

- ・学習支援ツールや知育ゲームの使い方、画面を通して支援しやすい方法、説明や質問の仕方など、テストプレイや実践を通して、オンライン支援で使用する様々なツールの研鑽を積んだ。



▲オンライン開催した新規ボランティア説明会

## 慢性疾病を抱える子どもの相互交流を支援する「ポケットスペース」

- ・ 支援拠点、市内2か所の小児病棟を結ぶオンライン支援により、年間延べ43人の子どもや保護者との交流や相談、学習支援を実施した。
- ・ 学習支援や交流支援を利用する子どもたちや保護者が安心して利用できるよう、貸し出し中のタブレット端末に説明用動画を入れ、タッチペンを導入するなどした。
- ・ セールスフォースによる個別支援事例データにより、過去の支援内容の反映や、医療スタッフとの支援に関する連携などが図られ、個別最適化された支援活動が実施されている。
- ・ 支援内容は知育ゲームによる交流、長期療養中の学習空白を埋める学習支援、受験勉強や復学に関する相談、進学先での合理的配慮の内容など、同じような長期療養経験のある当事者のピアサポートなど、幅広くおこなった。
- ・ 相談ダイヤルには年間で30件の相談が寄せられ、入院中の学習や、復学時の友人関係といった内容の相談に対応することができた。オンライン化によって岡山県内からのみでなく、全国からの相談にも対応することができた。
- ・ 学習支援ボランティアなど支援従事者は年間延べ268人が関わった
- ・ すべての活動がオンライン支援に変更された中でも、活動前の体温チェックや換気、マスクの着用、手指衛生の徹底など、看護師と連携し感染症対策を行い実施した。



岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援業務

## 体験交流イベント

季節ごとに行う交流イベントや体験学習については、既存の利用者との交流に感染症対策としてzoomのテレビ電話機能を使い実施した。相談ダイヤルからつながった県外参加者や、保健所からの紹介でつながった子どもなど交流の輪が広がった。企画・運営は同様に、スタッフや学習支援ボランティアを中心に行った。

- ポケサポデー（自分の病気について話そう！）  
『先輩に聞いてみたい事』：参加者18名  
開催日時：2022年7月2日

- ポケサポ夏祭り&ビンゴ大会：参加者19名  
開催日時：2022年8月27日

- オンライン科学工作教室：参加者19名  
岡山東ロータリークラブとの協働開催  
開催日時：2022年10月30日

- ポケサポクリスマス会2022：参加者27名  
開催日時：2022年12月18日

## きょうだい・家族ケア

- ・今年度のイベント関連では、例年に比較してきょうだいの参加が多くみられた。
- ・相談ダイヤルやホームページ、ブログなどを見てからの復学や病気を抱えながらの子どもの生活に関する相談について保護者からの不安に応えられるよう、しっかり時間を取り対応するなどした。
- ・ご家族が、病気を抱える子どもとそのきょうだいの関係について悩みや不安を相談されるケースもあり、きょうだい支援団体の紹介などを通じて支援を行った。



## 病気療養児に携わる多職種連携によるサポートチーム作り事業

- ・個別性の高い相談に対して様々な事例が多機関他職種で共有されることにより、入院中や復学段階の子どもの様々な状況に適したサポートを支援者同士で共有する場として、地域における病気療養児支援に関わる専門家らと年3回のネットワーク会議を開催した。
- ・定例会による意見交換と事例共有として、岡山県教育委員会、岡山市保健所、倉敷市保健所、備中保健所、岡山県立早島支援学校の各担当者が参加。支援者同士がつながることができた。
- ・事業のまとめとして2023年2月26日には「病気を抱える子ども支援・多職種連携オンラインフォーラム」を開催。岡山県立岡山御津高校 末廣校長／岡山医療センター 清水先生にご登壇いただき、YouTubeによるライブ配信で実施した。参加人数：247名(事前参加申込者数)



- ・本事業は「田辺三菱製薬・手のひらパートナープログラム」による助成により実施した。

# コロナ禍における長期療養児へのWEBアウトリーチ事業

- ・コロナ禍による外出自粛や当事者同士で交流することや、気軽に会話できる機会が不足しており、当団体のことを知らずに困っている保護者の方に必要な情報を届けるため、Google 検索キーワード連動型広告や YouTube 動画広告を活用したアウトリーチ実践と、相談事例の蓄積と多機関・多職種連携コーディネートを実施した。
- ・岡山県内では小児、高校生、中学生、白血病、障害、入院、治療、相談というキーワードの検索数が多いことが明らかとなり、これらのキーワードに対して重点的に広告設定を行い、表示回数やクリック数を増やしていく取り組みを実施した。
- ・本事業はタケダ・ウェルビーイング・プログラムのコロナ緊急助成により実施した。
- ・支援対象者へのWEBアウトリーチでは、Google 検索連動広告を活用して「病気 子ども 学習」などのキーワード検索時に、ポケットサポートの相談窓口へつながるように誘導を実施した。

知ってもらおう【インストリーム広告】

**【インストリーム広告】** 他社の関連動画を視聴する際の最初に動画広告を再生興味のない視聴者は5秒後にスキップできる



岡山県内の視聴者に限定して配信  
広告クリックで特設ページに誘導

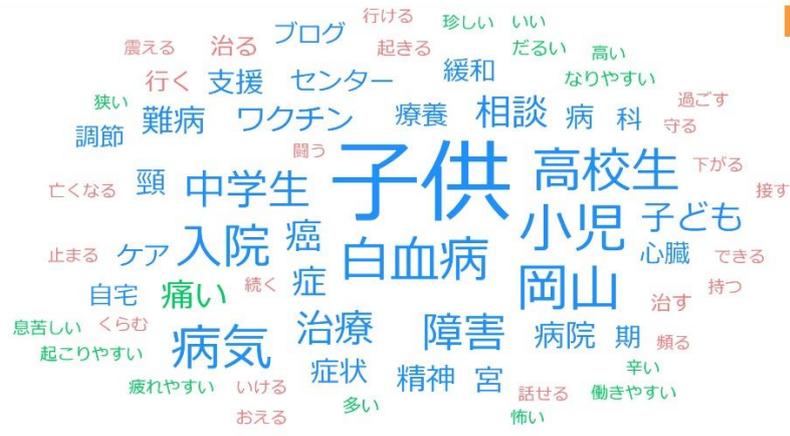
**【2022年10月1日～10月31日までの広告掲載実績】**  
 広告表示回数：30,828回、クリック数：798回  
 クリック率：2.59%、平均視聴単価：35円  
 検索連動型広告の費用合計：28,046円



岡山県内限定



「病気・子ども」関連のGoogle検索キーワード(2022年1～6月調査)



岡山県内限定

広告表示回数：9,926回、クリック数：306回、クリック率：3.08%、平均クリック単価：323円  
 検索連動型広告の費用合計：98,925円

## 講師派遣事業

2022年度は、年間9回の講演を行った。オンラインだけでなく現地へ赴いての講演も少しずつ増えてきた。テーマは病気の子どもの教育環境について、代表の三好の自らの闘病経験や、NPOとして行政や多職種で連携する取り組みについての話題提供も多くみられた。聴講者は、特別支援学校の教員や、大学生、他県の小児慢性疾患子ども支援のボランティア、今年度は初めて支援学校病弱部の生徒にも講演を行うなど、多岐にわたった。

①5月16日：岡山大学教育学部特別支援教育講座  
「病気の子どもの支援」

～ポケットサポートの活動を通じて～

参加者：岡山大学教育学部生 約60名

②7月9日：小児看護学会第32回学術集会シンポジウム「病気の子どもの権利を守るために～支援者になった当事者の立場から～」

参加者：看護師など学会参加者 約250名

③7月25日：岡山県立早島支援学校「病弱児のキャリア教育と長期入院した子どもが経験すること」参加者：病弱部教員 約20名

④11月8日：国立特別支援教育総合研究所  
第三期特別支援教育専門研修  
[病弱専修プログラム]「地域における病気のある子どもの支援の実際」

参加者：特別支援学校病弱担当教員7名

⑤11月12日：吉備中央町加賀中学校  
「病気の子どもの気持ちを考える」

参加者：中学2年生、保護者、教員等122名

⑥11月29日：岡山県立早島支援学校

「病気や障がいがある生徒の将来について」

参加者：病弱部在籍生徒 6名

⑦12月10日：日本育療学会第26回学術集会

公開シンポジウム「民間（NPO法人）が地域連携・協働により病弱児を支える取り組み」

参加者：学校教員等の集会参加者 約120名

⑧3月5日：NPO法人未来ISSEY研修会

「病院にいる子たちを中からも外からも見えてきて」参加者：中～大学生ボランティア12名

⑨3月25日：小児がん対策国民会議教育WG

「NPO法人ポケットサポートが作る病気療養児を支える取り組み」

参加者：教育・医療関係者、当事者 約110名

### 著作

①小児看護 2022年12月号 vol45

「みんなで築こう！協働関係 日常から話し合える環境に必要な事」 有意義な入院生活を送るための看護師との協働：病気を抱える子どもへの学習・復学・自立支援／へるす出版

ご協力いただいた皆様に感謝を申し上げます。

## 地域多職種連携拡充・研修事業

- ・2022年8月7日（日）にYouTubeライブ配信にて「病気を抱える子ども支援・多職種連携オンラインフォーラム」を開催した。全国から400名を超える多職種の皆様に申しいただき、当日は330名以上の同時視聴があった。
- ・感染症対策のため副島先生にはオンラインで登壇いただく形となったが、視聴者の皆様のコメントでも「息をのみながら聞いています」「共感しながら聞いています」と、全国の参加者とライブチャットによる双方向性を持ちながら意見交換することができた。
- ・第2部の岡山県内における取り組み事例紹介、第3部のトークセッションでは岡山県教育委員会特別支援教育課の頃末先生にも登壇いただき、高校生の遠隔授業の取り組みや学校現場で配慮したことなどをご紹介いただいた。
- ・全国的にも珍しい「病気療養児教育サポート相談窓口」が岡山県教育委員会内に設置されており、医療機関や学校現場、教育委員会やNPOが協力して取り組んできた事例は「岡山モデル」と呼ばれるほど、参加者の皆様にとって明日への希望や、地元団体へ取り入れたい内容として満足度の高いものとなった。
- ・本事業は公益財団法人橋本財団の助成により実施した。



## 個別支援事例を伝え広める事業

- ・岡山県内の病気療養児支援で多職種が連携して取り組んだ実践事例を集約して、事例紹介するための動画制作及び事例集の制作を行った。
- ・完成した事例集は岡山県内のすべての小学校から高等学校に配布すると同時に、全国の学校現場で参考にしていただくため、電子ブックとして無料公開を行った。
- ・プレスリリースを報道各社に発信し、地元紙以外にも教育新聞のデジタル版に掲載された。
- ・本事業は公益財団法人ベネッセこども基金の助成により実施した。



## 運営に関する事項

### (1) 総会

通常総会	開催日	2022年6月18日(土)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2)※オンライン
	出席	社員総数26名のうち21名出席(表決委任状13名、オンライン出席8名)
	決議事項	・2021年度(令和3年度・第7期)事業報告及び決算報告について

### (2) 理事会

第1回	開催日	2022年5月21日(土)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2)※オンライン
	出席	理事3名(本人出席2名、委任状1名、欠席0名)、監事1名、事務局2名
	決議事項	・総会の開催に伴う関連書類の確認 ・パワーハラスメント防止に関する規程について
第2回	開催日	2022年6月18日(土)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2)※オンライン
	出席	理事3名(本人出席3名、委任状0名、欠席0名)、監事1名、事務局2名
	決議事項	・クレジットの利用規程について ・小口現金規程について
第3回	開催日	2022年7月23日(土)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2)※オンライン
	出席	理事3名(本人出席3名、委任状0名、欠席0名)、監事1名、事務局2名
	決議事項	・個人情報保護規程について
第4回	開催日	2022年9月24日(土)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2)※オンライン
	出席	理事3名(本人出席3名、委任状0名、欠席0名)、事務局2名
	決議事項	・JCNEアドバンス評価に関する審査指摘事項 ・事務所賃貸契約更新に関する確認事項 ・職員給与手当に関する各手当単価設定 ・認定NPO更新手続きに関する提出書類確認

第 5 回	開催日	2023 年 3 月 18 日 (土)
	場所	ポケットサポート事務所 (岡山市北区奥田本町 22-2) ※オンライン
	出席	理事 3 名 (本人出席 3 名、委任状 0 名、欠席 0 名) 監事 1 名、事務局 2 名
	決議事項	<ul style="list-style-type: none"><li>・令和 5 年度予算および事業計画について</li><li>・事務所電気代について</li><li>・事務所移転に伴う条件について</li><li>・役員報酬規程について</li><li>・総会に付随する事項について</li></ul>

## (3) 補助金・助成金

補助・助成機関名（順不同）	内 容	金 額
公益財団法人ベネッセこども基金	多職種連携での支援事例を伝え広める WEBアウトリーチ事業	1,000,000
公益財団法人橋本財団	多機関多職種連携による 病気療養児ソーシャルワーク支援事業	1,500,000
田辺三菱製薬 手のひらパートナープログラム	病気療養児に携わる多職種連携による サポートチーム作り事業	850,000
大和証券グループ未来応援ボンド こども支援団体サステナブル基金	デジタル広告を活用したファンドレイジング 強化とWEBアウトリーチ拡充	3,500,000
MDRT Foundation-Japan	探究学習プログラムGEMSを活用した 学びや発見・考える楽しさ体験イベント開催 (2023年5～8月開催予定)	200,000
岡山市市民活動支援金	長期療養中の児童生徒と つながるプロジェクト	100,000

## (4) 受託事業

委託元	内 容	金 額
岡山市	岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援業務	2,000,000

## (5) 外部委員会への参加など

委員会等名（順不同）	委員名
SDGs ネットワークおかやま 副会長	三好 祐也
岡山県特別支援教育専門家チーム員	三好 祐也
岡山県特別支援教育エキスパート派遣事業 専門家チーム員	三好 祐也
岡山県立早島支援学校 学校運営協議会委員	三好 祐也
岡山県特別支援教育専門家チーム員	奥田 修平
岡山市市民活動アドバイザー 支援者拡大のためのマーケティング活用	奥田 修平
岡山県院内学級連絡協議会	三好 祐也